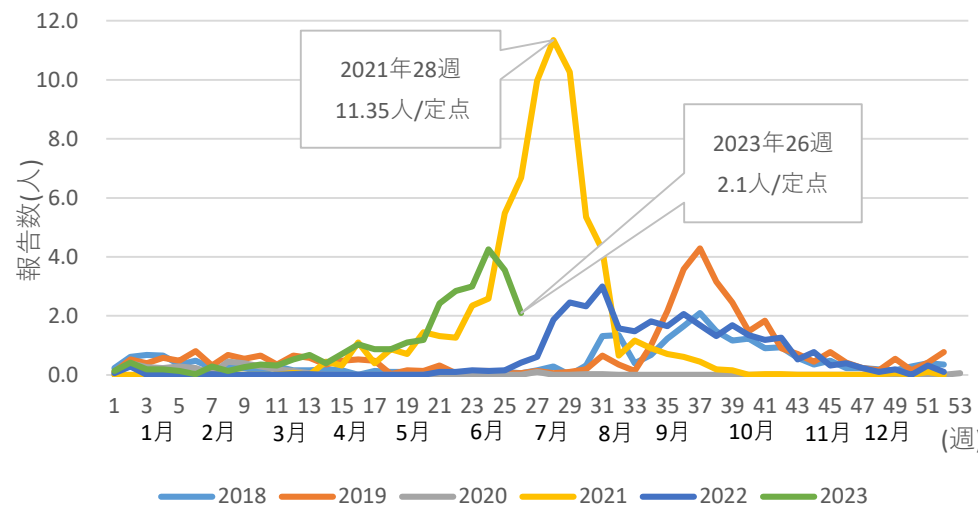


RSウイルス感染症の報告数が急増しています！



参考：神戸市感染症統合情報システム 週報

例年、秋から冬にかけて流行していましたが、近年は7月より報告数が増加傾向となっています。2020年はコロナの感染対策により、RSウイルスの流行も抑えられていました。その結果、RSウイルスに対する免疫が全くない、または不十分な子どもが増加し、2021年の大流行につながったと考えられています。RSウイルスに対する免疫が不十分な子どもが多くなると、季節にかかわらず流行する原因になると考えられています。

参考：国立感染症研究所 (2021.9.29)

RSウイルスってどんな病気？



RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、発症の中心は0～1歳児のため保育園等で感染拡大しています。生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1度は感染すると言われています。

潜伏期間は2～8日、典型的には4～6日間の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、重くなる場合は細気管支炎や肺炎を起こします。特効薬はないので、治療は対症療法（症状を和らげる治療）になります。

感染対策

接触感染



- 子どもたちが日常的に使うおもちゃや手すりの消毒
※消毒にはアルコールや次亜塩素酸を使用
- まめな手洗い



飛沫感染



- 子どもの周りの方で、咳などの呼吸器症状がある人のマスクの着用



ポイント！

乳幼児（特に乳児）が発症すると重症化することがあります。咳等の呼吸器症状がある時は、マスクを着用し、乳幼児との接触は控えましょう。